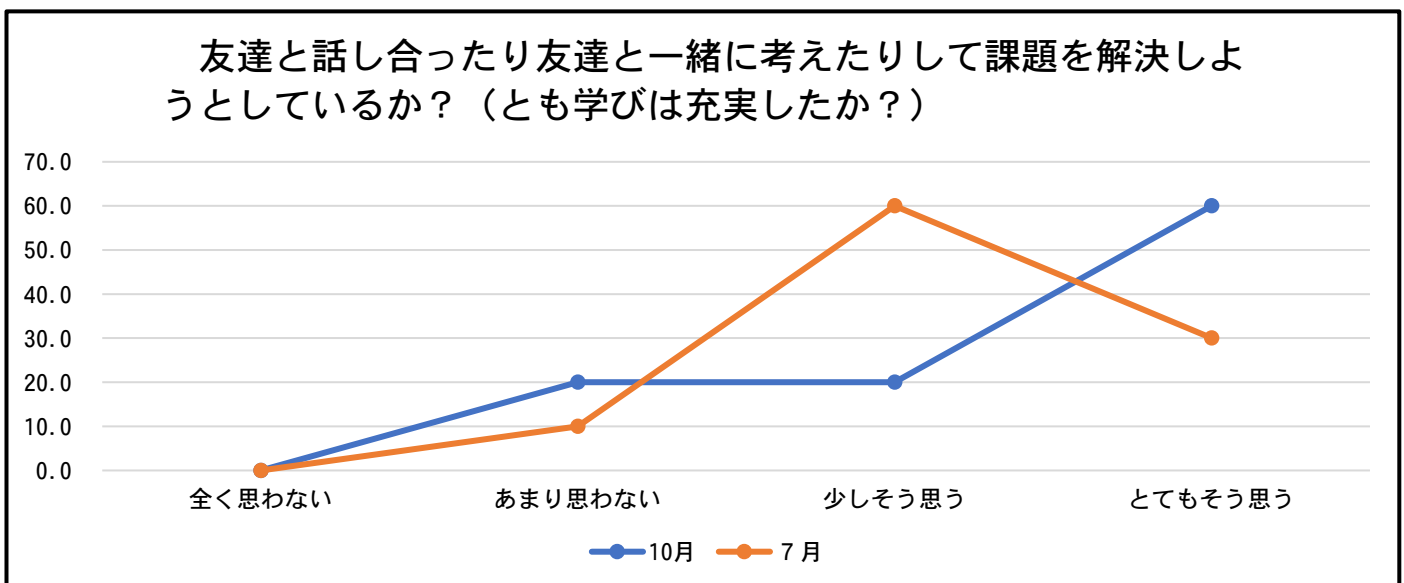


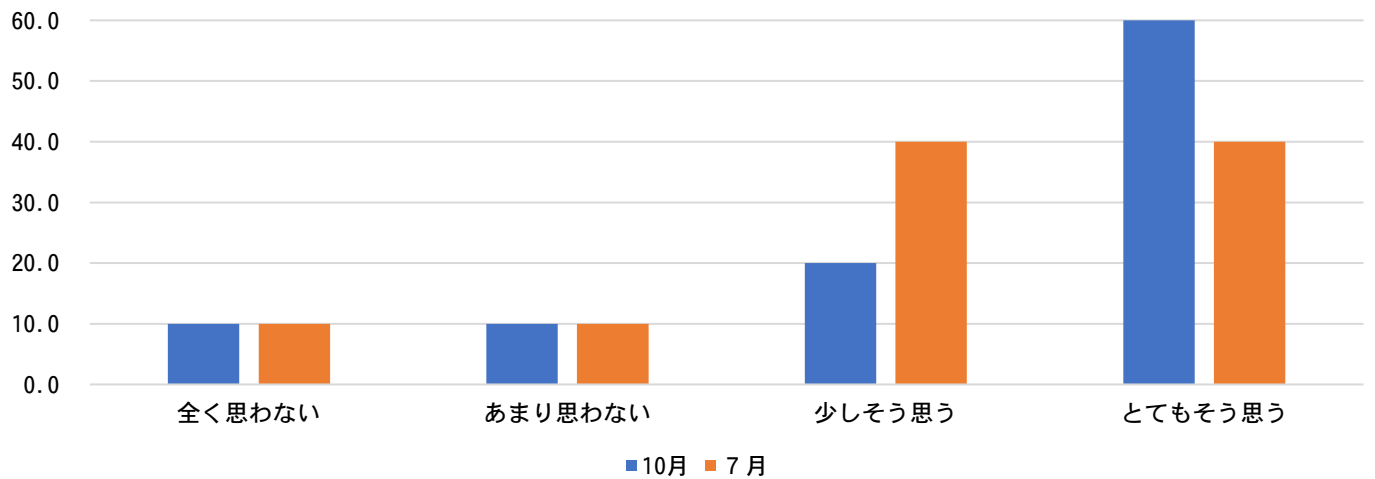
	変数 1	変数 2
平均	1.5	2.3
分散	0.5	0.677777778
観測数	10	10
ピアソン相関	0.286299167	
仮説平均との差	0	
自由度	9	
t	-2.752988806	
P(T<=t) 片側	0.011183595	
t 境界値 片側	1.833112933	
P(T<=t) 両側	0.02236719	
t 境界値 両側	2.262157163	



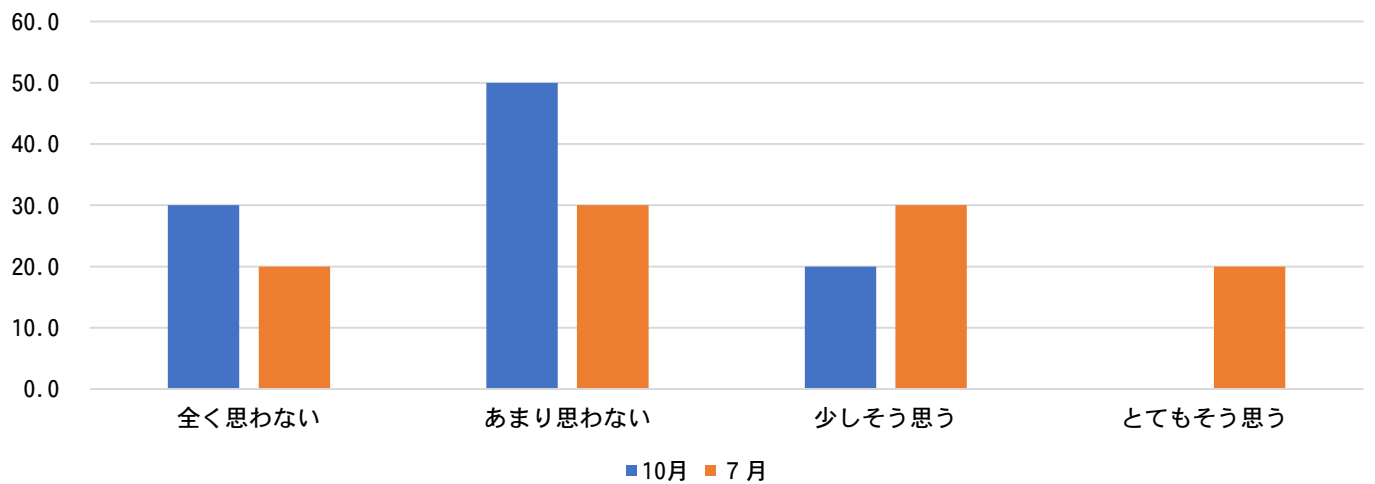
課題（折れ線グラフより）

とも学びの効果が表れている。このことから、とも学びを充実させていくために、習熟を図り、既習事項を定着させる必要がある。また、既習事項に基づいて、予習を行わせる工夫が必要である。

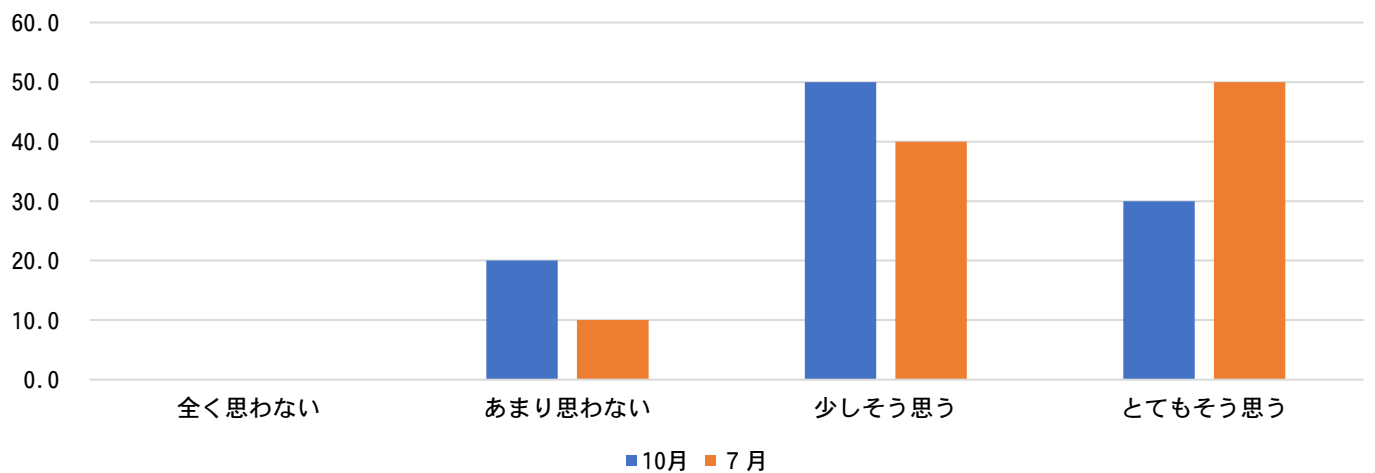
### 宿題より、予習の方が自分のためになると考えている割合は増えたか？



### 自分なりに内容を考えて、予習することがあると感じているか？



### 自分には、自分なりの予習のやり方があると捉えているか？



課題 (棒グラフより)

予習の必要感や、効果を自覚し始めている。一方、予習のやり方を示していく必要がある。